

# ご あ い さ つ



地域の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

おかげをもちまして、当金庫は、明治42年5月の創業以来、本年で116年目を迎えることができました。この間、一貫して地域金融機関としての使命を十分に認識し、地域の皆さま方にご支援をいただきながら事業の拡大、経営体質の強化に努めてまいりました。

今年度も当金庫へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「2025 にししんのご案内」を作成いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

さて、わが国経済は、コロナ禍の収束に伴い、緩やかに回復しているものの、物価の上昇は続き、緊迫する国際情勢や米国の関税政策などによる不確実性の高い海外経済動向も相まって、先行きは不透明な状況に置かれています。また、金融環境は、日本銀行の金融政策の見直しにより、「金利ある世界」そして「金利が上がる世界」へと大きく転換しています。

地域経済においても、先行きは不透明な状況にあり、コロナ融資の返済が本格化するなか、原材料価格の高騰、賃上げに伴うコスト上昇分の価格転嫁の遅れや人手不足の影響が経営を圧迫するなど、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いています。

地域で最も身近な金融機関である信用金庫においては、地域が抱える課題の解決に取り組み、持続可能な地域社会の実現に貢献していくことが求められています。

このような経済・金融環境のなか、令和6年度、当金庫では、金融仲介機能を強化し、適切な業務運営及び経営効率の向上に取り組んでまいりました。また、資産の健全化を目的とした不良債権処理、リスクを考慮した効率的な余資運用を実施いたしました。

令和7年度は、経営3か年計画の中間年度として、成長・発展に向けた変化への挑戦に引き続き取り組んでいく重要な事業年度と位置付けています。安定した収益力と将来に亘る健全性の確保に向けて、ガバナンスの強化、生産性の向上、収益基盤の一段の底上げ、営業体制の強化を図り、信用金庫の強みである「Face to Face」による心の通った活動を行うことで、お客さまに喜んでいただける営業活動を実践して地域の皆さま方の期待に応え、地域シェアの向上、強固な営業基盤の確立に取り組んでまいります。また、お取引先企業の資金繰りを確りと支えるとともに、伴走型の本業支援に地道に取り組む、経営力強化支援、創業支援、円滑な事業承継支援など、あらゆる事業フェーズにあるお取引先企業への支援の拡大に努めてまいります。

引き続き厳しい経営環境が予測されますが、“にししん”は、役職員が共通の認識のもと、全員の総合力で各種課題の解決に取り組む、地域の活性化、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和7年7月

理事長 池上 弘